

編集後記

とある大手経済夕刊紙の1面に、最近の海外への留学動向についての記事が掲載されていた。留学動向に改善の兆しが見えているようだ。最近の円高がその動向に拍車をかけており、今年はさらに増加しそうな勢いである。企業も海外展開を行いグローバルに活動をしていかななくてはならない中、新卒採用でも留学等の海外での活動経験を重視していくとっている。海外勤務をできれば避けたいとしている新入社員の数も多いそうで、今後会社を背負っていく若者のこのような考え方に危機感をいただいている企業としては当然の動向であると思われる。

近年の学生の海外への無関心さは研究室でも感じることが多い。私の所属研究室では、学生による海外発表を積極的に行っている。その際には、世界の見聞を広げるための海外研究施設やその開催都市の「見学」も許容している。私個人としては積極期に見学してくるべきとさえ考えている。我々の時代は、国際会議発表の際には必ず見聞を広げようと努力をしていたものだが、最近の学生は発表だけしてすぐに帰国してしまう。海外に滞在することが面倒くさいという学生さえいる。国際的垣根が飛躍的に低下し

ており、我々の学生時代とは一概に比較できることではないが、海外見聞を広げ国際性を養える良いチャンスの一つであるのにとっても嘆かわしい事である。毎年就職活動時期が早くなり、大学の就職担当部署も早く活動することを煽っており、余裕のない学生が多くなっている現状では仕方がないことかもしれない。しかしながら、国際的に活躍できるエンジニアの排出を目的とする当研究室としては、海外の企業・大学と共同研究を実施するなど、積極的に国際環境を整備してきた。今回報道により、我々の活動の後押しをしてくれる社会状況になったことに少し安堵している。

先日 JRR 3 の代替利用にてオーストラリアで実験されてきた方は、世界最高と思っていた国内の研究施設が使えないのはとても痛手であったが、この機会に海外施設の良さや考え方を再認識できたと言われた。関係各位には、世界からご提供いただいている代替施設の利用を積極的に行っていただいて世界の状況の再認識の機会にもしていただきたく思う。その際には是非学生を同行させていただき、国際感覚の養成も合わせて行っていただくことを切に望む次第である。
(三宅弘晃)

プラズマ・核融合学会役員

会 長	小川 雄一	副 会 長	斧 高一	二宮 博正	常務理事	西村 新 (総務委員長)
理 事	疇地 宏 (企画委員長)		石原 修		伊藤 早苗	
	上杉 喜彦		甲斐 俊也		小森 彰夫	
	坂本 慶司 (広報委員長)		笹尾眞實子 (プログラム委員長)		清水 克祐 (財務委員長)	
	永津 雅章		林 康明 (出版委員長)		堀池 寛 (広告委員長)	
	山崎 耕造 (編集委員長)		米田 仁紀			
監 事	飯尾 俊二		中澤 一郎			

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディター：山崎耕造(名大)

エディター：安藤晃(東北大)、坂本瑞樹(筑波大)、中村祐司(京大)、村上匡且(阪大)、室賀健夫(核融合研)、佐々木浩一(北大)

編集委員：秋山毅志(核融合研)、伊藤剛仁(阪大)、今井 誠(京大)、大原 渡(山口大)、岡本 敦(東北大)、片山一成(九大)、菊池崇志(長岡技科大)、熊谷 晃(株ジェイ・イー・ティー)、古賀麻由子(阪大)、後藤拓也(核融合研)、小林進二(京大)、近藤正聡(東海大)、佐竹真介(核融合研)、佐藤正泰(原子力機構)、三瓶明希夫(京都工繊大)、柴垣寛治(鈴鹿高専)、杉山貴彦(名大)、曾我之泰(金沢大)、田代真一(阪大)、田中将裕(核融合研)、中村龍史(原子力機構)、廣瀬貴規(原子力機構)、福山隆雄(愛媛大)、藤澤彰英(九大)、村中崇信(宇宙航空研究開発機構)、山家清之(新潟大)、吉沼幹朗(核融合研)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

プラズマ・核融合学会誌第87巻第9号

編集・発行

〒464-0075 名古屋市千種区内山3丁目1-1 4階

社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会

Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485

E-mail: plasma@jspf.or.jp URL: <http://www.jspf.or.jp/> 定価1,365円(本体1,300円)

印 刷 株式会社荒川印刷

2011年(平成23年)9月25日

本誌に掲載された寄稿等の著作権は(社)プラズマ・核融合学会が所有しています。

編集委員会開催日について 当学会誌の編集委員会は原則として、毎月第1火曜日に開かれています。但し、都合により変更になる場合があります。